

## 第2回天人峡美瑛線災害対策会議議事概要

日時	平成30年8月28日(火) 13:30~15:00
場所	上川総合振興局 3階 会議・入札室
出席者	天人峡美瑛線災害対策会議開催要領 構成員一覧表を参照
事務局	上川総合振興局 旭川建設管理部
座長	北海道大学工学研究院 教授 清水 康行

### 1 開会

### 2 挨拶

○上川総合振興局 旭川建設管理部 関事業室長から開催にあたって挨拶

### 3 議事

#### (1) 天人峡美瑛線の道路整備方針について

○資料1、資料3について事務局より説明(資料2は参考配布)

#### ○意見交換

##### ・概要

#### 《河川シミュレーションについて》

##### (質問)

・瀬替盛土下流部を霞堤にした場合、流速は下流部を閉じた状態よりも早くなるのか。また、流速が遅くなると、水位は高くなるのか。

##### (回答)

・霞堤にした場合の流速は、下流部を閉じた状態よりも早く、瀬替盛土なしの状態よりも遅くなる。また、流速が遅くなると、水位は高くなる。

##### (質問)

・霞堤、河畔林上流端部の盛土等の仮設工を実施した現在の河道では、砂防計画流量でも、越水しないシミュレーション結果になっているが、今回の被災は局所的に流水の水位が上昇したことが越水の要因なのか。

##### (回答)

・河畔林により流速が遅くなり、流水が堰上げされて水位が上昇したことが、越水の要因と考えている。

#### 《山側道路法面の被災メカニズムについて》

##### (質問)

・道路山側の被災は、忠別川からの越流によるものか、山側の流水による側方侵食が要因なのか。また、山側の流水は川からの越流によるものか、山からの流水によるものか。

##### (回答)

・道路山側の被災は、忠別川の越流が主原因であると考えている。  
ただし、山側の流水は、忠別川の越流のほかに山からの流水も含まれている。

(質 問)

- ・資料3の8ページにある道路横断図に示されている山側の被災水位（DHWL）は、道路基面高より低いのではないか。

(回 答)

- ・山側の被災水位は被災時の痕跡水位から、道路基面高としている。

(質 問)

- ・被災区間において、山側の地盤が高くなっていることが要因の一つなのか。

(回 答)

- ・崖が道路に近づく区間で山側の地盤の一部が高くなっており、こうした地盤高等が急激に変化するような箇所、流速が早くなったことが、山側の道路法面における侵食被害の要因と考えている。

(質 問)

- ・山側の流水部を道路から離すことで、道路法面の侵食を防止できないか。

(回 答)

- ・道路と崖までの距離は、5～10mと近く、流水部を道路から離すことは困難である。

(質 問)

- ・山側の流水について、どう対策するのか。

(回 答)

- ・山側道路法面は護岸により保護したうえで、山側の流水については、旭川旭岳温泉線との交差点部の地盤高が最も低くなっている箇所に横断函渠等の流末施設を整備する考えである。

#### 《擁壁の根入れ深の検討について》

(質 問)

- ・擁壁の根入れ深を検討した際の最大洗掘深は、道路横が水路となった場合を想定しているのか、忠別川の主流路が道路に寄ってきた場合を想定しているのか。

(回 答)

- ・忠別川の主流路が道路に寄ってきた場合ではなく、道路横が水路となった場合を想定して最大洗掘深を求めている。

#### 《短期的な対策方針について》

(質 問)

- ・道路対策として、河川側は擁壁、山側は護岸を設置する計画だが、出水時は潜り道路として通行させるのか。

(回 答)

- ・事前通行規制区間のため、連続雨量が80mmを超えた場合に通行止めとなる。このため、道路を越水するような場合は、通行止めにより利用者の安全を確保する。また、道路を越水した場合でも、道路自体が被災しなければ、通行止め解除後、すぐに通行が可能となるように、構造物や舗装で道路全体を覆う道路強化を提案した。

(質 問)

- ・背替盛土の有無に関わらず、河畔林内に流水が入ると堰上げされて道路へ越水するため、短期的な対策だけでは、根本的な安全確保は難しいのではないかと。

(回 答)

- ・短期的な対策として、早期に対応が可能な復旧を含む道路整備を行い、中長期的な対策については、今後、関係機関と連携しながら検討していきたいと考えている。

(意 見)

- ・瀬替盛土の工夫として、霞堤の下流部の形状について、流水の流向を滑らかに忠別川の主流路に向かう状態にすると、流水水位の堰上げは抑制されると考えられるので、シミュレーションを行ったうえで実施すると良いと思う。

《中長期的な対策の検討について》

(意 見)

- ・第3床固工は満砂状態であり下流側にも砂州が堆積しているため落差が生じておらず、道路の対岸側の袖部が壁となり道路側に向かう流量を分散させないように働いた可能性がある。被災箇所からさらに上流部の天人峡温泉街付近には砂防堰堤が複数整備されており、上流からの土砂供給量はそれほど多くないことが想定されるため、この区間の土砂供給は中流部分が主となる。  
こうした状況を踏まえると、第3床固工の落差を確保することで、一定程度の効果が期待できるため、今後の検討の参考にしてほしい。

《まとめ》

(意 見)

- ・短期的な対策として、復旧を含む道路整備については、事務局が提示した対策案で進めて良いと考える。

#### 4 事務連絡

- ・本会議は、本日の第2回をもって終了。
- ・今後は、被災箇所については早期復旧に向けて10月査定を受ける予定。
- ・未被災箇所を含めて、災害に強い道路整備を進めていく。

#### 5 閉会

【会議風景】

